

して、最近対応した複数のジョブを順番に実行する簡単な仕組みについての要望があります。ジョブを順番に実行する仕組みそのものは元々あったのですが、だいぶ煩雑でパツとは使えず、使おうとするどうしても一手間かかる面倒くさいものだったので、それをもっと簡単にできる方法はないかという要望です。これについては幸運にも需要を私の方でも理解できていて、仕組み自体はちょっと時間があれば実装できそうだったので、実装しました（現在

の jsub コマンドで利用可能な --step 及び --stepany オプションです）。現在、この機能は要望を出した人以外にもそれなりに使われているようです。この機能には元々潜在的な需要はあったのですが、管理側でそのような潜在的な需要を読み切ることが一般的に極めて困難です。かといって、現状の受付体制のままで要望をどしどし御寄せ下さい、とアピールしても期待通りに要望が集まるわけでもなさそうです。もうちょっと気楽に要望を投げつけられ

るような仕組み、例えば登録ユーザーしか使えないけどほぼ匿名（本当に完全に匿名にすると別の問題が発生しそうなので、IPアドレスくらいはどっかに記録されるでしょうが）で要望を出せる仕組みでしょうか。できるものをできる範囲で実現して行きたいです。ただ、何か新しいモノを作っていくにはやはりちょっと漕ぎ手が足りてない、というのが実際のところですよ。

覧古考新25 | 2003年

最近、例の大学共同利用機関の法人化問題で振り回されている。この改革によって素晴らしい体制と組織が出来そうと言うことであれば良いが、どうもそういう明るい光が見えてこない現実の中で、それでもこれを進めて行かねばならず、しかもそれに荷担しなくてはならないのは誠に心外であり健康に良くない。誰かが、「山本五十六の心境ですね」と冷やかしてくれたが、残念ながら「言い得て妙」である。多大な時間と労力を費やしているが、日本の基礎学術は100年の計で本当に大丈夫なのだろうかと心底心配になる。国に資金が十分でない時の良くない改革は最悪である。

.....

よく、日本の組織改革は「着せ替え人形だ」と言われる。体裁だけが違って、中身が変わらないのである。今回は、「着せ替えで中身が腐らない様に気を付けなくてはならない」と言う皮肉な状況にあるのではないだろうか!! 少しでも良い方向に向かう様に（多大な!）努力をしなくてはならない。

何はともあれ、基礎科学、基礎学術の意義とその重要性について我々自身が改めて深く考え直さなくてはならない。社会に対する責任を自覚すると共に、意義と重要性を強く訴えていく努力をする必要がある。「基礎科学は子供の様なものだから大事にしなくてはいけない」という表現がある。「将来有用な大人に育って行く者がいるからである」と言うこともあるが、むしろ、「子供それ自身に存在意義がある」からなのである。基礎科学、基礎学術もそれ自身に存在意義があるのである。ただ、我々が殻に閉じこもって奢っているだけでは許されない。説明責任は果たさなくてはならない。しかし、何と言っても、最大の問題は、科学者自身が気概を失い、プラグマティズムと応用研究重視の風潮に流されているのではないかと危惧されることである。

分子研レターズ No.48 「レターズ：最近思うこと」(2003年)

中村 宏樹 (分子科学研究所教授)